



安曇野日和

連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

2013年も年の瀬となりました。ミサトピア小倉病院にとっても私自身にとっても今年は激動の1年でした。

年が明けて間もない1月に病院機能評価機構の受審がありました。受審を宣言してから1年未滿と準備期間としては十分とはいえなかったのですが、ほとんどの項目でA判定をいただいて予想以上の好成績で合格することができました。職員の一人ひとりが懸命に取り組んだ成果が結果として現れたのだと感激しました。

そんな喜びもつかの間、2013年の内には電子カルテを実現することになり、7月から準備、研修を積み重ねる日々が続きました。これまでの「紙カルテ」とは形も使い勝手も全く違うシステムとなるため、ペーパーレス・手順の簡略化・アクセスの良さ、などのメリット多いものの、PCの操作に慣れない、指示・発注者の権限や一時的に肩代わりすることが難しくなるなど、融通が利かない面があることも事実です。

果たして使用開始の10月1日を迎えて、いささかドキドキしながらPCに向かいました。ところが当初想像していたよりも操作上の混乱は少なく、概ね順調な滑り出しといっても良いと思います。その後は細かな部分で調整が必要なこともありますが、日常使用中ではメリットを感じることが多いと思います。

院長の交代も含めて次々と変化を求められるミサトピア小倉病院に、全職員が高いモチベーションで臨んだことが結果として実を結んだ1年だったと思います。

2014年はもう少し穏やかに過ごせますように……。皆さん、お互い良い年を迎えましょう。

表紙写真

写真タイトル：「白鳥さんとかもさん」 撮影者：樋口 孝（広報委員長）

精神科病棟だより

1-3病棟紹介

介護主任 青柳 千秋

1-3病棟は、50床の精神科療養病棟の開放病棟です。主として長期的な治療・療養が必要な精神疾患の方が入院される病棟で、精神療法・薬物療法・作業療法プログラムを中心にセルフケア能力を高める療養プログラムを行っています。精神療法・薬物療法に関しては、前号で紹介した療法とほぼ同じです。作業療法に関しては、卓球大会を開催し、トーナメント戦で優勝者を競ったり、ソフトバレーチームを編成したりして、プログラム中は汗だくになり練習したりしています。今の時期は、クリスマス会のための、ツリーやリースの作成を熱心にされています。

また、病棟の日課として、運動不足解消のため、希望される方に毎日、体育館で30分間のウォーキングを実施したりもしています。



七夕会では、短冊を笹に吊るした後、患者さん手作りの七夕ゼリーをみんなで美味しく食べました。

入院患者さんは男性患者さんが39名、女性患者さんが11名と男性患者さんが多い病棟です。年齢は40代～90代で、平均年齢は68歳です。最高齢は90歳の女性で、ベッドで読書をし、自分で洗濯をし、病棟ホールの畳コーナーに座布団がちらかっているとサッサと片付けてくれる、とても90歳には見えない、小柄で落ち着いた方です。

ホールには、見守りスタッフが必ずいるようになっていています。私が、見守り役になり、患者さんを見ていると、ゆっくり新聞をみて、読み終わると隣の人に「見る？」と渡しあったり、畳コーナーでは、将棋をしたり、横になって休んでいる人など、お互いに良い距離感で接しているようにみえます。一方、食事の時間以外はホールに出てこないで自分の病室でのんびりと過ごすのが落ち着く方や、売店で買い物をするのが楽しみな方がいるなど性格も様々です。

身体介護を必要とする患者さんが、自分でできることはできる限り自分でやろうと努力されているかと思えば、自分で動ける方が、何もしないで「やって、やって、」と騒いでいたりして、自立度が低くても努力されている方には感心したりします。

この病棟は、全体に1日がゆっくりゆったりと過ぎていくという感じがします。患者さんも、静かに1日を過ごしているようにも見えます。

病棟のスタッフは、20代から60代のベテランスタッフまで、個性派ぞろい…。40代が一番多く、男性スタッフも沢山配属されています。

患者さんが安心安全に入院療養生活を送ることができるように援助し、休日は山登りの看護長を先頭に、スタッフ一丸となって、この1-3病棟を盛り上げています。



薪集め、焚火、茶巾しぼり作り…
それぞれ、自分の役割を頑張った焼きいも会でした。

介護療養病棟だより

1-1病棟 ケアマネージャーとして

介護支援専門員（ケアマネ） 鳥羽 保三子

1-1病棟は介護保険の老人性認知症疾患療養病棟で、医学・看護・療養管理のもと、介護や生活機能訓練等の介護保険サービスをPDCAサイクルで提供しています。

病症や個別性に配慮をした援助を目指して、患者さんやご家族の希望を汲み取り、施設サービス計画書（Plan）を作成します。入院カンファレンスにて、担当医からのMRI画像等での病症説明や診療計画等の情報をスタッフ全員で共有し、目標を明確化しています。計画を実行（Do）し、ご本人やご家族と面談して満足度に目を配り、計画が適切なものであったかを検証（Check）します。サービス担当者会議を計画し、ご本人・ご家族の意向・担当医の診療方針・各担当者の意見を聴き改善（Act）し、具体的なサービス計画（Plan）を作成しています。

会議の結果、ご本人のサイズに合う低床車椅子を導入し、車椅子を自力駆動出来るようになったケースもあります。ご家族からの退院を含めた様々な介護相談に乗り、在宅退院や施設申し込みの援助をしています。退院カンファレンスを計画し、ご本人・ご家族・担当医・在宅ケアマネ・訪問看護・介護・福祉用具業者等とのカンファレンスも開催しています。ご本人も参加して意見を述べられることで、退院に向けて安心されています。

患者さんやご家族に出来るだけ多くの時間をかけて関わり、どのようなサービスがベストなのか、常に思いやりの心で考えています。

演奏会開催

1-1病棟では、病棟内ホールにて、スタッフによる演奏会を開催しています。患者さんも、スタッフが演奏するリコーダー・ピアノ・キーボード・二胡による童謡曲に合わせて、手に持ったマラカス・スズなどを鳴らして歌を歌い、楽しそうに参加しています。

8月に開催された演奏会では、岸川先生がしの笛による「月の砂漠」を演奏しました。患者さんは先生の演奏に聞き入っており、感動して涙している様子も見られました。「夏の思い出」「我は海の子」「ふるさと」「七夕」など季節に合わせた選曲で演奏会は進み、アンコールもあり、患者さん・スタッフ共に楽しい時間を過ごすことができました。



患者さんと一緒に踊っています。



岸川Drと、病棟スタッフによる演奏です。

演奏会が開催される前には、病棟内でスタッフが演奏曲を練習していると、曲に合わせて患者さんも歌っているといった光景がホールでは見られました。

最後に炭坑節を踊り、終わりました。演奏会は定期的に予定していますが、みんなで体を動かし声を出して楽しい時間を持てたらと思っています。

カラオケ大会開催

平成25年10月5日（土）に、院内の体育館において、病院行事のカラオケ大会が開催されました。

カラオケ大会にエントリーした患者さんの多くは、作業療法プログラムのカラオケでも歌っている方がほとんどでした。作業療法のカラオケには、50名前後の患者さんが集まりますが、カラオケ大会では、その倍以上の人たちが聞いている中で歌うこととなります。そこには、普段通りに楽しそうに歌っている患者さんや、普段ではみられないほど緊張している患者さんの姿がありました。歌い終わるとほっとした様子で、参加賞を嬉しそうに選び、受け取っていました。

作業療法では、カラオケ大会の開催に向けて、精神科療養病棟の患者さんが、個人作業療法の時間に看板作りを行いました。今回は、フェルトなどを用い、「カ」「ラ」「オ」「ケ」「大」「会」と一文字ずつ縫って作りました。大会当日は、会場に飾られた看板を見て、「あそこにあるね」「素敵ね」などと患者さん同士、笑顔で話されており、満足のいく仕上がりとなったようでした。



第48回長野県精神科病院協会職員研修会

平成25年11月8日（金）上田市文化会館において、長野県精神科病院協会職員研修会が開催されました。前年度の研修会は、当院が当番病院として開催の運営を担当いたしました。今年度は千曲荘病院が運営の担当をされました。



当院からは、4名参加し、精神保健福祉士が取り組んだ権利擁護の事例について発表をしました。各参加病院からも数多くの発表がされ、今後の取り組みや患者さん・ご家族への支援の参考になりました。今後も、この研修会への参加・発表を続けていく必要性を痛感しました。

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

今年1年を振り返ると、ミサトピア小倉病院では、年明け早々に日本医療機能評価機構の審査があり、年度途中で院長が篠崎先生から桑村先生に交代となるなど、色々なことがあったことが思い出されます。来年も健康に過ごせますようにと願いつつ、慌ただしい年末を乗り越え、ゆっくりとした年明けを迎えたいものです。

広報委員長 樋口 孝